

横浜市立 滝頭小学校 学校評価報告書 (平成28～30年度)

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①重点教科を算数と定め、目標達成のために計画的な授業研究を進める。 ②楽しく、わかる授業の充実を図ることで、達成感や成就感を数多く経験させる。 ③日々宿題を課し、採点・手直し・理解補強を積み重ねて、家庭学習の定着と充実を図る。こどもも達成感や成就感が味わえるよう配慮する。	①算数科において、基礎・基本の力をつける授業展開を研究し成果があがったが、児童の実践力に結び付くところまでもう一歩あげられなかった。 ②操作や体験的な展開を多く取り入れ、思考する時間を確保し、わかる授業を味わえる授業構成を努力してきたが、まだ全学年活動では実現できていない。③日々の宿題提示は定着している。	B
豊かな心	①仲間づくりを大切にた教育活動を実践(たてわり活動・福祉教室・あいさつ運動)する。 ②道徳教育・人権教育を充実させる。 ③一日の生活を豊かにする「あいさつ」の意味を考えさせ、日常に根付かせる。	①たてわり活動は学校の核となる行事として守り定着し、児童同士の心がふれあう場面も多く見られた。②道徳教育は計画の見直しも行う充実を図った。日々の児童の生活に生かせるようにすることが課題である。③「あいさつ」は定着している。一人ひとりが意義を感じて進んでいこうとするようにしていきたい。	B
健やかな体	①日々の給食指導を通じて、食の大切さを実感させる。 ②スマイル健康委員会が中心となり、体幹を鍛える。本校オリジナルのキラクルバランス体操の普及に努める。同じく、集会や学校保健委員会でけがの防止を全校に訴える。 ③ふれあひ活動の一環として、大縄跳びで異学年交流しつつ、体力向上を図る。	①はくばくたりの活用により、栄養や食材に興味をもつことができた。②キラクルバランス体操は定着してきた。更に教室で行えるストレッチ体操等も取り組む、縄跳びの普及に努める。③ふれあひ活動や集会に取り入れることができた。児童が主体的に体力向上を意識できるよう工夫していった。	B
児童生徒指導	①日々の学校生活を通して、お互いが気持ちよく生活できるようにするには、どうすればよいかを考えさせる。⇒規範意識の定着 ②友人や学級内のトラブルが、その解決のための努力により、絆を深める経験に努める。 ③全職員で全校児童を育てる体制づくりを進める。 ④Y-Pアセスメント調査活用による児童理解を図る。	①規範意識の定着を図り、集団の一員として気持ちよく生活できるよう、善悪の判断ができ、ルールやマナーを守ることができるよう児童を育てる。②友人や学級内のトラブルを、その解決のための努力により、絆を深める経験に努める。③全職員で児童を育てる体制を進める。④Y-Pアセスメント調査活用による児童理解を図る。	A
特別支援教育	①個別支援計画の作成とそれに基づいた特別支援教育の充実を図る。 ②個別支援学級運営の充実を図る(個々の実情に合わせた交流学習の充実など)。 ③学習ルーム開設による希望者への支援授業を実施する。 ④学習環境の充実を図る(掲示物等・教材の工夫、個々の特性に合わせた発問や課題の設定)。	①多様なニーズに対応して個別に支援計画を立て、できる限りの取組を工夫してきた。②個別支援学級の学級運営は充実していた。③学習ルームの活用により学習意欲向上が図ることができ、基礎力の向上につながった。④支援学校の先生方との連携を通して、児童に必要な課題を見出し目標設定や環境の充実を図る努力ができた。	B
地域連携	①地域との交流を推進する(6年生のソーラン披露、福祉施設との交流、地域行事への積極的な参加、地域行事への会場提供など)。 ②学習として、また探検等「地域」を深く知る。 ③学校と地域の安全のための連携を強化する(年間複数回の夜間防犯パトロール実施など)。	①地域行事参加を継続する(クラブ活動等)。 ②ケアラザやコスモスやまのちの施設と交流を推進し、学習の中でタイアップしていく(総合・生活)。 ③学校と地域の安全のための夜間防犯パトロールを継続実施する。 ④ホームページ等を活用して、情報を積極的に地域に知らせていく。	A
#REF!			
#REF!			
人材育成・組織運営	①ミドルリーダーを中心に年間を通じて計画的に授業・学級経営改善のための活動を行う。 ②主幹教諭や他の先輩教師が指導者として、積極的にメンバーチームに関わる。 ③研修内容を全職員で共有し、その理解を深める。 ④日々の授業・学級経営の実践をお互いに参観、情報交換しながら切磋琢磨する。	①ミドルリーダーがそれぞれ学年経営や学校運営で、主任や学級教員と協力して中心的役割を担いチームの中で大いに力を発揮した。②メンバーチームの研修は調和がとれた。③各分掌の主任が主導して、様々な場面で必要な研修の企画や運営が行われた。主幹教諭や教務会が適宜サポートにあたり効果的に実施された。	B
ブロック内相互評価後の集付	・中学校AETが高学年に授業を行ったことは一貫教育に効果的だった。他教科にも広げていきたい。 ・小中授業参観では9年間を見通しての教科研究が行われた。交流会では、ブロックとしての児童育成の重点が話し合われ効果的であった。 ・教務会での情報交換で、中1キックアップに向けての小学校での必要な構えを共有することができ、進学校で落ち着いてスタートが切れてきたと成果が報告された。 ・ブロックの取組であるコミュニケーションや相手意識の育成などを受けて挨拶の励行を進める。	・ブロックとして育ててきた子ども像・指導者の共有化とし、「徳」に示した価値の実現をめざした授業公開や情報交換は、効果的であった。 ・中学校のAETが複数回小学校を訪問し、学習指導を行ったことは児童にとって有効であった。 ・小中ブロックでの授業公開後の教科ごとの研究会では、9年間を見通しての話し合いが進められ、小学校に向けておくべき学習内容や学習ルールについて話し合われ、活かされている。 ・学力の向上をめざして、考えて行動できる児童生徒を育てることが必要という点で共感できた。	B
学校関係者評価	・学校の取組について、概ね良好の評価を得た。 ・地域の方による登下校の見守り活動の長年の功績が認められている。 ・地域夜間防犯パトロールやおじの会のイベント開催で連携の素晴らしさが評価されている。 ・学習の定着について、家庭の協力も得て一層の努力を続けてほしい。 ・保護優良校として表彰されたことは家庭と教職員の努力が認められた結果である。 ・放課後の児童の様子や公園での過ごし方など今後も情報共有をしながら育成にあたりたい。	・保護者へのアンケート結果では学校の具体的な取組について概ね良いという評価を得た。 ・「まちどもにも歩む学校づくり懇話会」の参加者から教職員の努力が感じられるという評価を得た。 ・児童の学習態度がよく、私語がなく、教師の声がちゃんと聞いているとの感想があった。 ・学力の向上について、家庭の協力も得て一層の努力を続けてほしいという願いが多い。 ・「いじめの学習」が年々定着してきている。続けてほしいという意見がある。 ・PTA活動への理解が深まって多くの協力を得られている。	B
学校経営中期取組目標振り返り	・保護者や地域の理解・協力も教職員が努力をして日々順調に営むことができた。再来年90周年に向けて準備委員会を立ち上げた。活力と魅力にあふれた計画を立てていく。 ・学力向上について、今後も課題となる。学びの楽しさを実感できる授業づくりを一層努力していく。 ・相互に啓発・連携しつつ、全職員で全校の児童を育てる体制づくりは成果がもたれている。特に、あひ活動や児童指導ではチームとして力を発揮することができた。 ・体力向上や人権意識の育成についてはより工夫研究が児童が主体的に目標をまてるようにする。	・道徳教育の充実、いじめの学習、たてわりあひ活動などを通して、昨年度以上に豊かな人権感覚を育てる教育が推進できた。 ・算数科の重点研究を通して、表現しながら思考する授業づくりを推進した。学力向上においては、引き続き一層の努力をしていく必要がある。 ・いじめ問題への対応において、全職員で意識を高くもち、相互連携・協働体制づくりを推進した。 ・家庭・地域と連携し、今年度の90周年に向けての着実な準備をした。	B

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①継続して重点教科を算数と定め、目指す子どもの姿の実現のために基礎・基本を大切にしながら表現力・思考力を高める授業研究を進める。 ②楽しく、わかる授業の充実を図ることで、達成感や成就感を数多く経験させる。 ③日々宿題を課し、採点・手直し・理解補強を積み重ねて、家庭学習の定着と充実を図る。こどもも達成感や成就感が味わえるよう配慮する。	①重点研究(算数科)において、「基礎・基本」の定着を図り、思考力を高めるために必要となる手立てを明らかにした。②具体的操作や体験的活動などを授業に取り入れ、楽しく、わかる授業に取り組んできた。③来しは、日々の授業で活用している家庭学習のさらなる充実(基礎・基本の積み重ね)につなげていきたい。	B
豊かな心	①仲間づくりを大切にた教育活動を実践(たてわり活動・福祉教室・あいさつ運動)する。 ②道徳教育・人権教育を充実させる。いじめの根絶に向けて取り組みを強化する。 ③一日の生活を豊かにする「あいさつ」の意味を考えさせ、日常に根付かせる。 ④教職員の人権意識を高める校内研修を実施する。 ⑤いじめの根絶を計画的に実践する。	①仲間づくりを大切にた教育活動を実践(たてわり活動・福祉教室・あいさつ運動)する。②道徳教育・人権教育を充実させる。いじめの根絶に向けて取り組みを強化する。③一日の生活を豊かにする「あいさつ」の意味を考えさせ、日常に根付かせる。④教職員の人権意識を高める校内研修を実施する。⑤いじめの根絶を計画的に実践する。	B
健やかな体	①日々の給食指導を通じて、食の大切さを実感させる。 ②体幹を鍛える。本校オリジナルの「キラクルバランス体操」の普及に努めたり、「のびのびまわりストレッチ」を継続し、よい姿勢や体づくりを目指すとともに、けがの予防に努める。 ③全学年で短縄跳びを年間を通して行うことで、体力向上を図っていく。	①日々の給食指導を通じて、食の大切さを実感させる。②低学年にはキラクルバランス体操は定着してきた。のびのびまわりストレッチを継続することで、授業に集中できたり、姿勢を意識することができるようになってきた。③年間通しての短縄跳びの取組でできたことが、けがの多い状態で運動能力の向上が必要。	A
児童生徒指導	①規範意識の定着を図り、集団の一員として気持ちよく生活できるようにするには、どうすればよいかを考えさせる。⇒規範意識の定着 ②友人や学級内のトラブルが、その解決のための努力により、絆を深める経験に努める。 ③全職員で全校児童を育てる体制づくりを進める。 ④Y-Pアセスメント調査活用による児童理解を図る。	①規範意識の定着を図り、集団の一員として気持ちよく生活できるよう、善悪の判断ができ、ルールやマナーを守ることができるよう児童を育てる。②友人や学級内のトラブルを、その解決のための努力により、絆を深める経験に努める。③全職員で児童を育てる体制を進める。④Y-Pアセスメント調査活用による児童理解を図る。	A
特別支援教育	①個別支援計画の作成とそれに基づいた特別支援教育の充実を図る。 ②個別支援学級運営の充実を図る(教室環境や教材の工夫など)。 ③学習ルーム開設による希望者への支援授業を実施する。 ④学習環境の充実を図る(掲示物等・教材の工夫、個々の特性に合わせた発問や課題の設定)。	①児童や保護者の願いを聞いて支援計画を作成し、個々に合わせた支援を行った。②教室の活用を工夫し、様々な学習形態をとったりが学習を充実させた。③学習ルームや国際教室を有効に活用していつでもそれらの児童の課題に丁寧に対応した。④関係機関と連携しながら、様々な支援方法を話し合い合わせた発問や課題の設定。	A
地域連携	①地域との交流を推進する(6年生のソーラン披露、福祉施設との交流、地域行事への積極的な参加、地域行事への会場提供など)。 ②学習として、また探検等「地域」を深く知る。 ③学校と地域の安全のための連携を強化する(年間複数回の夜間防犯パトロール実施など)。	①地域の行事参加を継続する(クラブ活動等)。 ②ケアラザやコスモスやまのちの施設と交流を推進し、学習の中でタイアップしていく(総合・生活)。 ③学校と地域の安全のための夜間防犯パトロールを継続実施する。 ④ホームページ等を活用して、情報を積極的に地域に知らせていく。	A
#REF!			
#REF!			
人材育成・組織運営	①ミドルリーダーを中心に年間を通じて計画的に授業・学級経営改善のための活動を行う。 ②主幹教諭や他の先輩教師が指導者として、積極的にメンバーチームに関わる。 ③研修内容を全職員で共有し、その理解を深める。 ④日々の授業・学級経営の実践をお互いに参観、情報交換しながら切磋琢磨する。	①全教職員がいじめの定義を正確に理解し、保護者へ懇話会等で周知した。②相手を思いやる気持ちを大切に、いじめを許さない態度を養ってきた。③いじめは起こりうるものという認識に基づき、早期発見・早期解決に組織的に取り組む。④日々の中で、子どもや保護者との信頼関係を大事にし、丁寧な対応を行った。	B
ブロック内相互評価後の集付	・中学校AETが複数回小学校を訪問し、学習指導を行ったことは児童にとって有効であった。 ・小中ブロックでの授業公開後の教科ごとの研究会では、9年間を見通しての話し合いが進められ、小学校に向けておくべき学習内容や学習ルールについて話し合われ、活かされている。 ・学力の向上をめざして、考えて行動できる児童生徒を育てることが必要という点で共感できた。	・ブロックとして育ててきた子ども像・指導者の共有化とし、「徳」に示した価値の実現をめざした授業公開や情報交換は、効果的であった。 ・中学校のAETが複数回小学校を訪問し、学習指導を行ったことは児童にとって有効であった。 ・小中ブロックでの授業公開後の教科ごとの研究会では、9年間を見通しての話し合いが進められ、小学校に向けておくべき学習内容や学習ルールについて話し合われ、活かされている。 ・学力の向上をめざして、考えて行動できる児童生徒を育てることが必要という点で共感できた。	B
学校関係者評価	・学校の取組について、概ね良好の評価を得た。 ・地域の方による登下校の見守り活動の長年の功績が認められている。 ・地域夜間防犯パトロールやおじの会のイベント開催で連携の素晴らしさが評価されている。 ・学習の定着について、家庭の協力も得て一層の努力を続けてほしい。 ・保護優良校として表彰されたことは家庭と教職員の努力が認められた結果である。 ・放課後の児童の様子や公園での過ごし方など今後も情報共有をしながら育成にあたりたい。	・保護者へのアンケート結果では学校の具体的な取組について概ね良いという評価を得た。 ・「まちどもにも歩む学校づくり懇話会」の参加者から教職員の努力が感じられるという評価を得た。 ・児童の学習態度がよく、私語がなく、教師の声がちゃんと聞いているとの感想があった。 ・学力の向上について、家庭の協力も得て一層の努力を続けてほしいという願いが多い。 ・「いじめの学習」が年々定着してきている。続けてほしいという意見がある。 ・PTA活動への理解が深まって多くの協力を得られている。	B
学校経営中期取組目標振り返り	・保護者や地域の理解・協力も教職員が努力をして日々順調に営むことができた。再来年90周年に向けて準備委員会を立ち上げた。活力と魅力にあふれた計画を立てていく。 ・学力向上について、今後も課題となる。学びの楽しさを実感できる授業づくりを一層努力していく。 ・相互に啓発・連携しつつ、全職員で全校の児童を育てる体制づくりは成果がもたれている。特に、あひ活動や児童指導ではチームとして力を発揮することができた。 ・体力向上や人権意識の育成についてはより工夫研究が児童が主体的に目標をまてるようにする。	・道徳教育の充実、いじめの学習、たてわりあひ活動などを通して、昨年度以上に豊かな人権感覚を育てる教育が推進できた。 ・算数科の重点研究を通して、表現しながら思考する授業づくりを推進した。学力向上においては、引き続き一層の努力をしていく必要がある。 ・いじめ問題への対応において、全職員で意識を高くもち、相互連携・協働体制づくりを推進した。 ・家庭・地域と連携し、今年度の90周年に向けての着実な準備をした。	B

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①重点研究で明らかとなった、「基礎・基本」の定着を図り、思考力を高めるために必要となる手立てを授業に取り入れ、思考力を高める授業研究を進める。 ②楽しく、わかる授業の充実を図ることで、達成感や成就感を数多く経験させる。 ③日々宿題を課し、採点・手直し・理解補強を積み重ね、家庭学習の定着と充実を図る。こどもも達成感や成就感が味わえるよう配慮する。	①重点研究で明らかとなった、「基礎・基本」の定着を図り、思考力を高めるために必要となる手立てを授業に取り入れ、思考力を高める授業研究を進めた。②楽しく、わかる授業の充実を図ることで、子どもの意欲を引き出し、自信をつけさせた。③達成感や成就感を数多く経験させる。④日々の宿題を課し、採点・手直し・理解補強を積み重ね、家庭学習の定着と充実を図る。こどもも達成感や成就感が味わえるよう配慮する。	B
豊かな心	①仲間づくりを大切にた教育活動を実践(たてわり活動・福祉教室・あいさつ運動)する。 ②道徳教育・人権教育を充実させる。いじめの根絶に向けて取り組みを強化する。 ③一日の生活を豊かにする「あいさつ」の意味を考えさせ、日常に根付かせる。 ④教職員の人権意識を高める校内研修を実施する。 ⑤いじめの根絶を計画的に実践する。	①たてわり活動を通して心の成長を感じる場面が多かった。②道徳の授業の充実を促した。評価方法について検討し、改善を図った。③「あいさつ」は定着している。一人ひとりが意義を感じて進んでいこうとするようにしていきたい。④教職員の人権意識が深まった。⑤自他の命を大切にすることの大切さを共有した。	B
健やかな体	①日々の給食指導を通じて、食の大切さを実感させる。 ②体幹を鍛える。本校オリジナルの「キラクルバランス体操」の普及に努めたり、「のびのびまわりストレッチ」を継続し、よい姿勢や体づくりを目指すとともに、けがの予防に努める。 ③全学年で短縄跳びを年間を通して行うことで、体力向上を図っていく。	①日々の給食指導を通じて、食の大切さを実感させる。②体幹を鍛える。本校オリジナルの「キラクルバランス体操」の普及に努めたり、「のびのびまわりストレッチ」を継続し、よい姿勢や体づくりを目指すとともに、けがの予防に努める。③全学年で短縄跳びを年間を通して行うことで、体力向上を図っていく。	A
児童生徒指導	①規範意識の定着を図り、集団の一員として気持ちよく生活できるようにするには、どうすればよいかを考えさせる。⇒規範意識の定着 ②友人や学級内のトラブルが、その解決のための努力により、絆を深める経験に努める。 ③全職員で全校児童を育てる体制づくりを進める。 ④Y-Pアセスメント調査活用による児童理解を図る。	①規範意識の定着を図り、集団の一員として気持ちよく生活できるよう、善悪の判断ができ、ルールやマナーを守ることができるよう児童を育てる。②友人や学級内のトラブルを、その解決のための努力により、絆を深める経験に努める。③全職員で児童を育てる体制を進める。④Y-Pアセスメント調査活用による児童理解を図る。	A
特別支援教育	①個別支援計画の作成とそれに基づいた特別支援教育の充実を図る。 ②個別支援学級運営の充実を図る(教室環境や教材の工夫など)。 ③学習ルーム開設による希望者への支援授業を実施する。 ④学習環境の充実を図る(掲示物等・教材の工夫、個々の特性に合わせた発問や課題の設定)。	①児童や保護者の願いを聞いて支援計画を作成し、個々に合わせた支援を行った。②個別支援学級の学級運営は充実していた。③学習ルームの活用により学習意欲向上が図ることができ、基礎力の向上につながった。④支援学校の先生方との連携を通して、児童に必要な課題を見出し目標設定や環境の充実を図る努力ができた。	A
地域連携	①地域との交流を推進する(6年生のソーラン披露、福祉施設との交流、地域行事への積極的な参加、地域行事への会場提供など)。 ②学習として、また探検等「地域」を深く知る。 ③学校と地域の安全のための連携を強化する(年間複数回の夜間防犯パトロール実施など)。	①地域の行事参加を継続する(クラブ活動等)。 ②地域の施設と交流を推進し、学習の中でタイアップしていく(総合・生活・社会)。 ③学校と地域の安全のための夜間防犯パトロールを継続実施する。 ④ホームページ等を活用して、情報を積極的に地域に知らせていく。	A
#REF!			
#REF!			
人材育成・組織運営	①ミドルリーダーを中心に年間を通じて計画的に授業・学級経営改善のための活動を行う。 ②主幹教諭や他の先輩教師が指導者として、積極的にメンバーチームに関わる。 ③研修内容を全職員で共有し、その理解を深める。 ④日々の授業・学級経営の実践をお互いに参観、情報交換しながら切磋琢磨する。	①全教職員がいじめの定義を正確に理解し、保護者へ懇話会等で周知した。②相手を思いやる気持ちを大切に、いじめを許さない態度を養ってきた。③いじめは起こりうるものという認識に基づき、早期発見・早期解決に組織的に取り組む。④日々の中で、子どもや保護者との信頼関係を大事にし、丁寧な対応を行った。	B
ブロック内相互評価後の集付	・中学校AETが複数回小学校を訪問し、学習指導を行ったことは児童にとって有効であった。 ・小中ブロックでの授業公開後の教科ごとの研究会では、9年間を見通しての話し合いが進められ、小学校に向けておくべき学習内容や学習ルールについて話し合われ、活かされている。 ・学力の向上をめざして、考えて行動できる児童生徒を育てることが必要という点で共感できた。	・ブロックとして育ててきた子ども像・指導者の共有化とし、「徳」に示した価値の実現をめざした授業公開や情報交換は、効果的であった。 ・中学校のAETが複数回小学校を訪問し、学習指導を行ったことは児童にとって有効であった。 ・小中ブロックでの授業公開後の教科ごとの研究会では、9年間を見通しての話し合いが進められ、小学校に向けておくべき学習内容や学習ルールについて話し合われ、活かされている。 ・学力の向上をめざして、考えて行動できる児童生徒を育てることが必要という点で共感できた。	B
学校関係者評価	・学校の取組について、概ね良好の評価を得た。 ・地域の方による登下校の見守り活動の長年の功績が認められている。 ・地域夜間防犯パトロールやおじの会のイベント開催で連携の素晴らしさが評価されている。 ・学習の定着について、家庭の協力も得て一層の努力を続けてほしい。 ・保護優良校として表彰されたことは家庭と教職員の努力が認められた結果である。 ・放課後の児童の様子や公園での過ごし方など今後も情報共有をしながら育成にあたりたい。	・保護者へのアンケート結果では学校の具体的な取組について概ね良いという評価を得た。 ・「まちどもにも歩む学校づくり懇話会」の参加者から教職員の努力が感じられるという評価を得た。 ・児童の学習態度がよく、私語がなく、教師の声がちゃんと聞いているとの感想があった。 ・学力の向上について、家庭の協力も得て一層の努力を続けてほしいという願いが多い。 ・「いじめの学習」が年々定着してきている。続けてほしいという意見がある。 ・PTA活動への理解が深まって多くの協力を得られている。	B
学校経営中期取組目標振り返り	・保護者や地域の理解・協力も教職員が努力をして日々順調に営むことができた。再来年90周年に向けて準備委員会を立ち上げた。活力と魅力にあふれた計画を立てていく。 ・学力向上について、今後も課題となる。学びの楽しさを実感できる授業づくりを一層努力していく。 ・相互に啓発・連携しつつ、全職員で全校の児童を育てる体制づくりは成果がもたれている。特に、あひ活動や児童指導ではチームとして力を発揮することができた。 ・体力向上や人権意識の育成についてはより工夫研究が児童が主体的に目標をまてるようにする。	・道徳教育の充実、いじめの学習、たてわりあひ活動などを通して、昨年度以上に豊かな人権感覚を育てる教育が推進できた。 ・算数科の重点研究を通して、表現しながら思考する授業づくりを推進した。学力向上においては、引き続き一層の努力をしていく必要がある。 ・いじめ問題への対応において、全職員で意識を高くもち、相互連携・協働体制づくりを推進した。 ・家庭・地域と連携し、今年度の90周年に向けての着実な準備をした。	B